平成25年度事業評価シート(一般予算)

事業名	52105	畜産関係事務費	担当課	農政部　畜産課	内線
	枝番				2239

予算			総合計画		
会計	1	一般会計	政策	4	「にぎわい」のあるまちをまざして
款	5	農林水産業費	分野	4	畜産業
項	2	畜産業費	基本施策	1	安定した畜産経営を整備する
目	1	畜産総務費	施策	1	競争力のある生産基盤の整備

根拠計画		
実施計画事業		畜産関係事務費
市長公約	3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します ・安定した畜産業を実現するため、飛騨牛を代表とする各種畜産物の全国ブランド化や、 アジアを主体とした海外販路の確立を、具体的に進めます。

1　事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	農業者(肉用牛・乳用牛・養豚・養鶏)	対象者数	253　戸
	どういう状態にしたいのか(意図)	高山市の畜産振興の向上		
概要	事業の実施手法(手段)	飛騨畜産振興会の活動支援、畜産物PRのための旅費、畜産委員への報償等		

2　事業の推移・結果(Do)

成果面

H24の実績	畜産関係各種団体委員活動謝礼 飛騨畜産振興会負担金(飛騨地域の畜産振興のために、飛騨3市1村及び農協などで構成)

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	畜産関係各種団体委員活動謝礼	件	目標値	33	33	33
			実績値	33	33	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	－
成果指標	肉用牛飼育頭数	頭	目標値	3,700	3,800	3,900
			実績値	3,439	3,398	－
	算出根拠等		達成率(%)	93	89	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出　(千円)		(A)	918	943	1,253
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)		36	36	36
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)		30	30	30
	一般財源		852	877	1,187
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A／B)	3,451	3,727	4,953
	受益者　畜産農家	(B)	266	253	253

3　分析・評価(Check)　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	飛騨牛ブランドの確立は市民全体にとって重要である。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	飛騨地域としての畜産振興活動のため、飛騨畜産振興会への市負担金は不可欠である。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	飛騨地域としての畜産振興活動のため、飛騨畜産振興会への市負担金は不可欠である。 畜産関係団体の役員には、各種書類の取りまとめを依頼している。 肉用牛飼育頭数が伸び悩んでいる
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	飛騨畜産振興会への負担金により飛騨地域としての畜産振興活動が効率的に行われている。 畜産関係団体の役員には、各種書類の取りまとめを依頼しており、効率的な運営が図られている。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	肉用牛飼育頭数が伸び悩んでいる
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	7 ／ 10	→	100点換算	70 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	畜産を取り巻く情勢の的確な把握及び農業者への情報提供・指導
(参考)H24事業評価結果(二次評価)	畜産情勢を注視しながら事業を継続して実施する。

4　今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	畜産情勢を注視しながら事業を継続して実施する。

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	畜産情勢を注視しながら事業を継続して実施する。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	(担当課評価に同じ)				

平成25年度事業評価シート(一般予算)

事業名	52207 番枝	飛騨牛ブランド振興事業補助金	担当課	農政部　畜産課	内線 2239

予算			総合計画			
会計	1	一般会計	政策	4	「にぎわい」のあるまちをまざして
款	5	農林水産業費	分野	4	畜産業
項	2	畜産業費	基本施策	1	安定した畜産経営を整備する
目	2	畜産振興費	施策	1	競争力のある生産基盤の整備

根拠計画		
実施計画事業		
市長公約	3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します。 ・畜産業を実現するため、飛騨牛を代表とする各種畜産物の全国ブランド化

1　事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	農業者(肉用牛、肥育農家)	対象者数	216
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	飛騨牛の全共成果を活かした首都圏等内外への農畜産物の販売拡大・販路拡大		
概要	事業の実施手法(手段)	飛騨牛の全共成果を活かした首都圏レストランへの高山産食材の売り込み、首都圏レストランでの食材等PRイベント		

2　事業の推移・結果(Do)

成果面

H24の実績	安全・安心な飛騨牛PRの多岐にわたる実施と地域産粗飼料の利用促進

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
成果指標	飛騨牛割引特典券の配布、活用実績(10,000枚配布)	枚	目標値	1,000.0	860	－
			実績値	451.0	489	－
	算出根拠等		達成率(%)	45	57	－
成果指標	地域産稲わらの利用促進によるはさ干し稲わら収集量	ha	目標値	100	100	－
			実績値	99	70	－
	算出根拠等		達成率(%)	99	70	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出　(千円)		(A)	16,889	9,029	1,000
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)				
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				
	一般財源		16,889	9,029	1,000
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A／B)	73,430	41,801	4,630
	受益者　肉用牛農家	(B)	230	216	216

3　分析・評価(Check)　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	震災後の牛肉価格の下落の影響で、農業者団体が陳情にくるなど、対策を望んでいた。震災の影響により、国内産稲わらが不足したため、地域産稲わらを有効活用の希望があった。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	地域経済を牽引するブランドであり、市として対策を行うことは妥当である
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	飛騨牛の安全性のPRは多岐にわたり行われ、メディアを通じても発信することができた。割引券の使用も451枚となり、一定の消費拡大効果を得ることができた。 飛騨地域の稲作農家640戸から約99．2ha分のはさ干し稲わらを肉用牛農家に提供できた。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	割引券使用地域等にバラつきが見られた。 地域飼料確保緊急対策事業に関して、畜産農家の事務的負担が大きい。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	ブランドを守るために即時に多岐にわたる施策ができたことは有効であった。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		9 ／ 10	→	100点換算	90 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	割引券使用地域等にバラつきが見られた。 地域飼料確保緊急対策事業に関して、畜産農家の負担が大きかった。
(参考)H24事業評価結果(二次評価)	

4　今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	震災対策に限らず継続的なPR活動を行い、飛騨牛のブランド力の向上・消費拡大を目指す。

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	震災対策に限らず継続的なPR活動を行い、飛騨牛のブランド力の向上・消費拡大を目指す。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・事業の効果を検証した上で、農産物とも合わせて飛騨高山ブランド力の向上、生産・販路拡大に取り組むことが必要である。 ・市と団体の適正な役割分担が必要である。				

平成25年度事業評価シート(一般予算)

事業名	52215	後継者等肉用牛貸付事業費	担当課	農政部　畜産課	内線
	番枝				2239

予算			総合計画			
会計	1	一般会計	政策	4	「にぎわい」のあるまちをまざして
款	5	農林水産業費	分野	4	畜産業
項	2	畜産業費	基本施策	1	安定した畜産経営を整備する
目	2	畜産振興費	施策	3	新たな担い手の確保

根拠計画		
実施計画事業		後継者等肉用牛貸付事業
市長公約	3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します ・肉用牛飼育頭数4千頭を目指します

1　事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	肉用牛繁殖農家	対象者数	193
	どういう状態にしたいのか(意図)	飛騨牛繁殖基盤の確保並びに拡大を行い畜産基盤の経営安定を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	肉用牛繁殖雌牛の5年間無償貸付		

2　事業の推移・結果(Do)

成果面

H24の実績	貸付頭数　60頭

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
成果指標	肉用牛飼育頭数	頭	目標値	3,700	3,800	3,900
			実績値	3,439	3,398	－
	算出根拠等		達成率(%)	93	89	－
成果指標	貸付実施頭数	頭	目標値	75	75	75
			実績値	75	60	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	80	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出　(千円)		(A)	38,956	25,000	31,000
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)				
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)		38,956	25,000	31,000
	一般財源				
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A／B)	194,780	129,534	160,622
	受益者　肉用牛繁殖農家	(B)	200	193	193

3　分析・評価(Check)　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	小規模・零細な農家にとって、繁殖雌牛の育成は大きな出費となるので、5年間の猶予は助かる。又大規模農家にとっては、他にも有利な貸付制度が有り、利用が少ない(月賦返済の要望あり)。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	国の特別導入事業を基礎にして、国・県・市で基金を積み立ててきた。国の事業は廃止となり、平成23年度で返還終了したので、現在は県・市の積み立てた基金で運用している。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	高齢化や病気、けが等時における後継者不足により、繁殖農家戸数が急激に減少する中、繁殖雌牛飼養頭数の減少を低率に食い止めている。(H22→23 戸数▲4.8%、頭数▲2.0%)
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	県補助金を含んだ基金で対応している。 国の特別導入事業を基礎にして、国・県・市で基金を積み立ててきた。国の事業は廃止となり、平成23年度で返還終了したので、現在は県・市の積み立てた基金で運用している。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	繁殖雌牛の飼養頭数4，000頭をめざす保留・導入事業の一つ。増頭でなくても特別優秀でなくても利用でき、零細な農家にとっては県外導入や更新等でも手軽に利用できる。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		7 ／ 10	→	100点換算	70 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	無利子での肉用牛導入費用の貸付だが、一括返済を不安に思う農家が多い。分割での返済を受け付ける方策はないか。 高齢化や後継者不足で、畜産農家が毎年減少している。 国の補助金が廃止になり、県の補助金と市の積立て基金を造成し対応している。
(参考)H24事業評価結果(二次評価)	畜産農家のニーズを踏まえ、増頭目標達成のための効果的な運用を図っていく必要がある。

4　今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	繁殖農家の経営にとって有効な事業なので内容等の見直しを視野に入れながら続ける。

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	繁殖農家の経営にとって有効な事業なので内容等の見直しを視野に入れながら続ける。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・畜産農家のニーズを踏まえ、増頭目標達成のための効果的な運用を図っていく必要がある。				

平成25年度事業評価シート(一般予算)

事業名	52220	家畜防疫衛生事業費	担当課	農政部　畜産課	内線
	番枝				2239

予算			総合計画			
会計	1	一般会計	政策	4	「にぎわい」のあるまちをまざして
款	5	農林水産業費	分野	4	畜産業
項	2	畜産業費	基本施策	1	安定した畜産経営を整備する
目	2	畜産振興費	施策	2	安全で安心な畜産物の供給

根拠計画		
実施計画事業		家畜防疫衛生事業
市長公約	3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します。 畜産業の安定化を実現します。 産業としての畜産業を守るため、家畜診療の充実はもとより、管理アドバイス、非常時対策にも対応できる行政の体制強化に取り組みます。

1　事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	畜産農家(肉用牛・乳用牛・豚・鶏)	対象者数	253
	どういう状態にしたいのか(意図)	家畜伝染病の発生予防に努め、低コストで高品質な畜産物の安全安心な生産・供給による畜産経営の向上を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・伝染病調査及び発生予防 ・法定家畜伝染病予防接種補助 ・家畜伝染病予防消毒事業補助		

2　事業の推移・結果(Do)

成果面	H24の実績	・伝染病浸潤状況の調査 ・法定家畜伝染病(鶏ニューカッスル病)予防接種補助 ・家畜伝染病対策マニュアルの作成及び周知

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	法定家畜伝染病予防接種(鶏ニューカッスル病)	羽	目標値	153,000	153,000	160,000
			実績値	151,580	156,300	－
	算出根拠等		達成率(%)	99	102	－
活動指標	県外導入豚特定疾病検査(オーエスキー病)	頭	目標値	130	130	130
			実績値	2	10	－
	算出根拠等		達成率(%)	2	8	－
活動指標	届出伝染病(牛白血病)抗体検査	頭	目標値	2,400.0	2,400.0	2,400
			実績値	1,598.0	1,550	－
	算出根拠等		達成率(%)	67	65	－
成果指標	法定伝染病発生数	件	目標値	0	0	0
			実績値	0	0	－
	算出根拠等		達成率(%)			－
成果指標	肉用牛頭数	頭	目標値	3,700	3,800	3,900
			実績値	3,439	3,398	－
	算出根拠等		達成率(%)	93	89	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
	歳出 (千円) (A)	1,392	1,153	1,408
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)			
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)	1,392	1,153	1,408
	一般財源			
コスト指標	受益者1件当たり(円) (A／B)	5,233	4,557	5,565
	受益者　畜産農家 (B)	266	253	253

3　分析・評価(Check)　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・安全で安心な畜産物の供給が望まれておりニーズは高い。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・自衛防疫の観点から、生産者自らが防疫措置をとる必要性はあるが、市全体の防疫措置を図る重要性があり、市が主体となって防疫事業を図ることは妥当である。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	大きな伝染病等の発生がみられず防疫事業による予防効果は上がっている。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・法律上の検査を含め、生産者自らの防疫措置のための負担が伴っており妥当なコストである。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・各種防疫事業を行うことにより家畜伝染病の発生予防効果は高く、安心安全な畜産物ブランドの向上に効果があり、畜産業に限らず、観光・商業等にも大きく効果がある。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	8 ／ 10	→	100点換算	80 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	・自衛防疫と市全体での防疫措置とを明確にしコスト削減を図りつつ、極端な縮減は行わず効果的な防疫事業を行う必要性がある。 ・緊急時の防疫対策の備蓄等を検討する必要性あり。
(参考) H24事業評価結果 (二次評価)	・家畜診療業務については、民間委託も視野に入れるとともに、一層の防疫体制の強化を図る必要がある。 ・平成24年度に策定した「家畜伝染病防疫対策マニュアル」の周知徹底を図り、鳥インフルエンザや口蹄疫、BSEなどの発生に備え、国・県・市・農業団体などの役割分担の明確化、実践的訓練の実施など、実効性ある取り組みを進めていく必要がある。

4　今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・伝染病予防にかかる生産者への普及啓発及び自衛防疫の徹底 ・届出伝染病(牛白血病)抗体検査の浸潤状況に基づき、陽性牛の淘汰等の指導措置を講じる

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・今後も引き続き、予防接種の推進、伝染病の浸潤調査を実施し防疫措置を講じていく。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・家畜診療業務については、民間委託も視野に入れるとともに、一層の防疫体制の強化を図る必要がある。 ・平成24年度に策定した「家畜伝染病防疫対策マニュアル」の周知徹底を図り、鳥インフルエンザや口蹄疫、BSEなどの発生への備え、国・県・市・農業団体などとの役割分担の明確化、実践的訓練の実施など、実効性のある取り組みを進めていく必要がある。				

平成25年度事業評価シート(一般予算)

事業名	52225	家畜人工授精事業費	担当課	農政部　畜産課	内線
	番枝				2239

予算			総合計画			
会計	1	一般会計	政策	4	「にぎわい」のあるまちをまざして
款	5	農林水産業費	分野	4	畜産業
項	2	畜産業費	基本施策	1	安定した畜産経営を整備する
目	2	畜産振興費	施策	1	競争力のある生産基盤の整備

根拠計画		
実施計画事業		
市長公約	3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します。 畜産業の安定化を実現します。 産業としての畜産業を守るため、家畜診療の充実はもとより、管理アドバイス、非常時対策にも対応できる行政の体制強化に取り組みます。

1　事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	・畜産農家(肉用牛・酪農家)	対象者数	240
	どういう状態にしたいのか(意図)	・優良子牛の生産、増頭により改良増殖を推進し、農家の経営安定を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・家畜改良、増殖の推進を図る。 ・和牛、乳牛の家畜人工授精。 ・和牛、乳牛の受精卵移植・採卵		

2　事業の推移・結果(Do)

成果面	H24の実績	人工授精　2,934　件　　受精卵移植　28　件　　採卵　29　件

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
成果指標	肉用牛飼育頭数	頭	目標値	3,700	3,800	3,900
			実績値	3,439	3,398	－
	算出根拠等		達成率(%)	93	89	－
活動指標	家畜人工授精手数料	件	目標値			
			実績値	2,922	2,934	－
	算出根拠等		達成率(%)			－
活動指標	家畜受精卵移	件	目標値			
			実績値	65	28	－
	算出根拠等		達成率(%)			－
活動指標	採卵	件	目標値			
			実績値	37	29	－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

市での人工授精件数等は微減傾向にあるが、大規模農家等では個人で対応されるため、総数は横ばいであろうと考えられる。

コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
	歳出　(千円)　(A)	22,581	23,955	24,760
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)			
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)	6,546	6,075	9,415
	一般財源	16,035	17,880	15,345
コスト指標	受益者1件当たり(円)　(A／B)	94,088	99,813	103,167
	受益者　・畜産農家(肉用牛・酪農家)　(B)	240	240	240

3　分析・評価(Check)　※平成24年度の実績を評価

	評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	優良牛の生産に必要な専門技術と知識を有する技術者が農家を指導することによって「飛騨牛」ブランドの維持を続けることができた。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	委託先も含め技術者が指導的立場として業務を実施したことで、「飛騨牛」ブランドの躍進につながった。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	優良牛の生産によって子牛の販売価格が全国1位で推移した。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	業務に掛かるコストを必要最小限にしている。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	優良牛の生産に努めることで「飛騨牛」ブランドを推進した。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	9 ／ 10	→	100点換算	90 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	生産者の収入増と「飛騨牛」ブランドの更なる躍進のために今後も続けていく必要がある。
(参考)H24事業評価結果(二次評価)	委託事務の拡大を図る必要がある

4　今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	「飛騨牛」ブランドの血統をさらに強固なものとして行くため、従来通り専門的知識と技術を持った職員により人工授精業務の総括管理を行った。。 清見地区については、直営で人工授精業務を行いつつ、AIセンター及び休日対応を行っている賃金職員に委託の可能性を打診した。

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	「飛騨牛」ブランドの血統をさらに強固なものとして行くため、従来通り専門的知識と技術を持った職員により人工授精業務の総括管理を行う。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・委託事務の拡大を図る必要がある。				

平成25年度事業評価シート(一般予算)

事業名	52227	繁殖牛舎建設支援事業	担当課	農政部　畜産課	内線
	番枝				2239

予算			総合計画			
会計	1	一般会計	政策	4	「にぎわい」のあるまちをまざして
款	5	農林水産業費	分野	4	畜産業
項	2	畜産業費	基本施策	1	安定した畜産経営を整備する
目	2	畜産振興費	施策	3	畜産関連施設の整備

根拠計画		
実施計画事業	繁殖牛舎建設支援事業	
市長公約	3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します ・肉用牛飼育頭数4千頭を目指します

1　事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	畜産農家(肉用牛)	対象者数	200
	どういう状態にしたいのか(意図)	肉用繁殖雌牛飼育頭数4,000頭を目指すため、飛騨牛素畜率の向上と飛騨牛ブランドの拡大を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	牛舎建設を行う生産農家、新規就農者、農事組合法人又は農業生産法人に対し補助する。		

2　事業の推移・結果(Do)

成果面

H24の実績	牛舎建設補助　2棟				
指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
成果指標　肉用牛飼育頭数	頭	目標値	3,700	3,800	3,900
		実績値	3,439	3,398	－
算出根拠等		達成率(%)	93	89	－
活動指標　繁殖牛舎建設実績	棟	目標値	3	3	3
		実績値	1	2	－
算出根拠等		達成率(%)	33	67	－
		目標値			
		実績値			－
算出根拠等		達成率(%)			－
		目標値			
		実績値			－
算出根拠等		達成率(%)			－
		目標値			
		実績値			－
算出根拠等		達成率(%)			－
		目標値			
		実績値			－
算出根拠等		達成率(%)			－
補足事項					

コスト面

事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出　(千円)		(A)	5,000	10,000	15,000
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)				
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				
	一般財源		5,000	10,000	15,000
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A／B)	5,000,000	5,000,000	5,000,000
	受益者　牛舎建設支援事業補助対象者	(B)	1	2	3

3　分析・評価(Check)　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	福数件の相談を受けており、農家のニーズは高い。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	繁殖肉用牛増頭のために23年度に立ち上げた新規事業であり、他の事業主体が実施する可能性は低い。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	事業を立ち上げた23年度の実績としては1件であったが、農家からの相談は複数件あり、増頭対策に寄与している。 農地転用、建築確認などの手続きに時間がかかることも一因。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	増頭対策にあたり、初期投資の軽減を図ることは有効であり、増頭対策に効率的である。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	事業を立ち上げた23年度は実績としては1件であったが、農家からの相談は複数件あり、増頭対策に寄与している。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		7 ／ 10	→	100点換算	70 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	制度の周知を図り、利用促進を行う必要がある。 また、計画段階で農地転用、建築確認等の手続きを確実に行うよう指導する必要がある。
(参考)H24事業評価結果(二次評価)	畜産農家のニーズを踏まえ、増頭目標達成のための効果的な運用を図っていく必要がある。

4　今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	計画段階で農地転用、建築確認等の手続きを確実に行うよう指導している。予算で予定している3件を超える相談件数がある。

次年度の実施方針(担当課評価)		維持・改善	○	拡大		縮小		廃止の検討		H25完了予定
	積極的に事業のPRを行い、建設を促す。事業要望が現状の予算で予定している件数を超えている状況から、予定件数を増やして予算化する必要がある。									

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H25完了予定
	・畜産農家のニーズを踏まえ、増頭目標達成のための効果的な運用を図っていく必要がある。									

平成25年度事業評価シート(一般予算)

事業名	52230	家畜改良推進事業費	担当課	農政部　畜産課	内線
	枝番				2239

予算			総合計画			
会計	1	一般会計	政策	4	「にぎわい」のあるまちをまざして
款	5	農林水産業費	分野	4	畜産業
項	2	畜産業費	基本施策	1	安定した畜産経営を整備する
目	2	畜産振興費	施策	2	安全で安心な畜産物の供給

根拠計画		
実施計画事業		家畜改良推進事業費
市長公約	3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します ・安定した畜産業を実現するため、飛騨牛を代表とする各種畜産物の全国ブランド化や、 アジアを主体とした海外販路の確立を、具体的に進めます。

1　事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	畜産農家(肉用牛・乳用牛・豚・鶏)	対象者数	253
	どういう状態にしたいのか(意図)	家畜の改良度や改良の方向性の確認のため各種共進会を開催することにより、畜産物のブランド化及び、農家の意欲向上による増産を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	各種品評会の開催		

2　事業の推移・結果(Do)

成果面

H24の実績	市共進会経費等家畜改良事業 全国和牛能力共進会負担金(飛騨畜産振興会負担金)

指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
成果指標　肉用牛飼育頭数	頭	目標値	3,700	3,800	3,900
		実績値	3,439	3,398	－
算出根拠等		達成率(%)	93	89	－
		目標値			
		実績値			－
算出根拠等		達成率(%)			－
		目標値			
		実績値			－
算出根拠等		達成率(%)			－
		目標値			
		実績値			－
算出根拠等		達成率(%)			－
		目標値			
		実績値			－
算出根拠等		達成率(%)			－
		目標値			
		実績値			－
算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出　(千円)　(A)	1,628	4,533	630
財源内訳　受益者負担(使用料・負担金等)			
財源内訳　その他特定財源(国・県支出金・起債等)	424	424	424
財源内訳　一般財源	1,204	4,109	206
コスト指標　受益者1件当たり(円)　(A／B)	6,120	17,917	2,490
コスト指標　受益者　畜産農家　(B)	266	253	253

3　分析・評価(Check)　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	飛騨牛ブランドを始めとするブランド確立を図り「安全・安心」をPR市民全体にとって重要である。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	飛騨地域としての畜産振興活動のため飛騨畜産振興会への市負担金は不可欠である。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	飛騨地域としての畜産振興活動のため飛騨畜産振興会への市負担金は不可欠である。 優良畜産物のブランド化及び農家の意欲向上による増産がある程度あがつている。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	飛騨畜産振興会への負担金により飛騨地域としての畜産振興活動が効率的に行なわれている。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	肉用牛飼育頭数が伸び悩んでいる。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	8 ／ 10	→	100点換算	80 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	畜産を取り巻く情勢の的確な把握及び農業者への情報提供・指導
(参考)H24事業評価結果(二次評価)	・全国的なブランド牛としての地位を確立するため、各種品評会の機会を捉え、市内外への積極的なPR/情報発信を図る必要がある。 ・今年開催の第10回全国和牛能力共進会長崎県大会における市の支援体制を総括し、検証する必要がある。

4　今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	畜産情勢を注視しながら事業を継続して実施する。

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	県・他市村・JA等関係団体と連携を密に畜産情勢を的確に把握したうえで農業者への情報提供・指導を行う。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・全国的なブランド牛としての地位を確立するため、各種品評会の機会を捉え、市内外への積極的なPR・情報発信を図る必要がある。				

平成25年度事業評価シート(一般予算)

事業名	52235	牧場放牧事業費	担当課	農政部　畜産課	内線
	番枝				2239

予算			総合計画		
会計	1	一般会計	政策	4	「にぎわい」のあるまちをまざして
款	5	農林水産業費	分野	4	畜産業
項	2	畜産業費	基本施策	1	安定した畜産経営を整備する
目	2	畜産振興費	施策	1	競争力のある生産基盤の整備

根拠計画		
実施計画事業		牧場放牧事業費
市長公約	3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します ・飼料自給率の向上、新規就農者の確保育成など総合的な畜産業振興策に取り組みます

1　事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	畜産農家(肉用牛飼養農家)	対象者数	210
	どういう状態にしたいのか(意図)	・夏山冬里方式の飼養管理として放牧推進を図り、他農業との複合経営の確立、飛騨牛の低コスト生産及び増産を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	・放牧場の整備、充実を図るとともに、適正な牧場利用調整、推進を行う		

2　事業の推移・結果(Do)

成果面						
H24の実績	放牧延べ頭数59,134					
指標名		単位	目標・実績	H23	H24	H25
成果指標	放牧延べ頭数	頭	目標値	72,000	72,000	72,000
			実績値	60,385	59,134	－
	算出根拠等		達成率(%)	84	82	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
補足事項						

コスト面			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)					
歳出 (千円)		(A)	17,898	17,777	19,770
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)		9,058	8,985	10800
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				
	一般財源		8,840	8,792	8,970
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A／B)	85,229	84,652	94,143
	受益者　肉用牛農家	(B)	210	210	210

3　分析・評価(Check)　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	低コスト生産畜産労働力の軽減につながりﾆｰｽﾞが高く、飛騨牛素牛生産が推進された。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	放牧における防疫・衛生対策が迅速に行える。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	牧場の現況に応じた放牧頭数の調整を行い、堆肥・肥料・牧草種子散布等により放牧場を活性化し放牧頭数の増頭を図っている。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	必要最小限のコストで事業が運営されている。また、受益者負担の見直しが必要とされる。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	総合計画・市長公約にも位置づけられ、飛騨牛の安定生産・飛騨牛ブランドの向上においても重要である。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		9 ／ 10	→	100点換算	90 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	放牧場施設及び草地の老朽化が目立っており、順次整備していく事により、放牧利用が推進され繁殖牛の増頭及び安定した子牛生産が見込まれ飛騨牛ブランドの躍進が期待される。
(参考)H24事業評価結果(二次評価)	指定管理者制度の導入に向け検討していく必要がある

4　今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	牧場施設・草地の維持管理

次年度の実施方針(担当課評価)										
	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H25完了予定
	牧場における家畜伝染病防疫体制の強化									

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)										
	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H25完了予定
	・指定管理者制度の導入に向け検討していく必要がある。									

平成25年度事業評価シート(一般予算)

事業名	52245	優良飛騨牛固定推進事業補助金	担当課	農政部　畜産課	内線
	番枝				2239

予算			総合計画			
会計	1	一般会計	政策	4	「にぎわい」のあるまちをまざして
款	5	農林水産業費	分野	4	畜産業
項	2	畜産業費	基本施策	1	安定した畜産経営を整備する
目	2	畜産振興費	施策	1	競争力のある生産基盤の整備

根拠計画		
実施計画事業		優良飛騨牛固定推進事業
市長公約	3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します ・安定した畜産業を実現するため、飛騨牛を代表とする各種畜産物の全国ブランド化や、 アジアを主体とした海外販路の確立を、具体的に進めます。

1　事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	畜産農家(肉用牛繁殖・酪農)	対象者数	204　戸
	どういう状態にしたいのか(意図)	・遺伝的に良質な牛肉を生産する能力の高い繁殖牛を保留または導入する。 ・優良な乳用牛の保留または導入による酪農経営の強化。		
概要	事業の実施手法(手段)	優良飛騨牛、優良乳用牛増頭に対する補助。(優良雌牛保留対策234千円×150頭、優良飛騨牛増頭推進100千円×50頭、優良乳用牛保留・導入対策35千円×30頭)		

2　事業の推移・結果(Do)

成果面

H24の実績	優良雌牛保留対策234千円以内×110頭、 優良飛騨牛増頭推進100千円×50頭、 優良乳用牛保留・導入対策35千円×30頭

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
成果指標	肉用牛繁殖雌牛・乳用牛雌牛飼養頭数	頭	目標値	4,900	4,900	4,900
			実績値	4,734	4,712	－
	算出根拠等		達成率(%)	97	96	－
活動指標	優良雌牛保留・導入頭数	頭	目標値	230	230	230
			実績値	187	190	－
	算出根拠等		達成率(%)	81	83	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出　(千円)		(A)	30,945	31,690	41,150
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)				
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)		12,446	12,816	17,550
	一般財源		18,499	18,874	23,600
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A／B)	145,282	155,343	201,716
	受益者　肉用牛繁殖農家・酪農家	(B)	213	204	204

3　分析・評価(Check)　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	5年間の飼養義務付きで、補助金234千は欲しいところだが、特別優秀な牛の為、条件に当てはまる雌子牛が少ない面がある。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	国庫金と県の補助金を合わせて積んだ基金により補助金の半額をまかない、市も同額を補助して導入費用の半額(上限234千円)を補助している。増頭補助・乳用牛補助は市単独事業。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	高齢化や病気、けが等時における後継者不足により、繁殖農家戸数が急激に減少する中、繁殖雌牛飼養頭数の減少を低率に食い止めている。(H22→23 戸数▲4.8%、頭数▲2.0%)
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	優良雌牛事業は4年前に県単事業から国費による畜産協会の事業に大きく制度変更してから、小さな変更を経て農家にもかなり浸透してきたところであり、今年度が最終年度である。乳用牛の事業は市単で一昨年改善に取り組み、昨年度から変更している。 繁殖雌牛4,000頭目標達成には、必要な事業であり県事業の積極的利用を行っている。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	利用農家にとっては、繁殖雌牛育成にかかる基畜経費は負担であり、優良雌牛は特に高価で負担が大きいところである。これに対する助成は、飛騨牛のブランド強化、頭数・経営維持に有効である。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		8 ／ 10	→	100点換算	80　点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	条件に当てはまる特別優秀な雌子牛の掘起し、さらなる保留・導入の推進。 高齢化や後継者不足で、畜産農家が毎年減少している。
(参考) H24事業評価結果 (二次評価)	優良雌牛保留対策事業の国・県の積立基金事業が今年度で終了するが、同様の補助事業の継続について農家からの要望が強い事から国・県に向け要望していく必要がある。 飼料高騰・景気低迷による畜産経営継続意欲の減退により高齢者及び小規模繁殖経営農家の廃業が進む中、優良雌牛の増頭により飛騨牛生産繁殖雌牛及び乳用牛の経営基盤を強化し、畜産の経営安定を図るために必要な事業である。

4　今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	条件に当てはまる特別優秀な雌子牛の掘起し、さらなる保留・導入の推進をする。 飼料高騰・景気低迷による畜産経営継続意欲の減退により高齢者及び小規模繁殖経営農家の廃業が進む中、各事業共に優良雌牛の更新・増頭により飛騨牛生産繁殖雌牛及び乳用牛の経営基盤を強化し、畜産の経営安定を図るために必要な事業である。

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	飼料高騰・景気低迷による畜産経営継続意欲の減退により高齢者及び小規模繁殖経営農家の廃業が進む中、優良雌牛の増頭により飛騨牛生産繁殖雌牛及び乳用牛の経営基盤を強化し、畜産の経営安定を図る。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	(担当課評価に同じ)				

平成25年度事業評価シート(一般予算)

事業名	52247 番枝	飛騨牛生産経営安定推進事業補助金	担当課	農政部　畜産課	内線 2239

予算			総合計画			
会計	1	一般会計	政策	4	「にぎわい」のあるまちをまざして
款	5	農林水産業費	分野	4	畜産業
項	2	畜産業費	基本施策	1	安定した畜産経営を整備する
目	2	畜産振興費	施策	1	競争力のある生産基盤の整備

根拠計画		
実施計画事業		飛騨牛生産経営安定推進事業補助金
市長公約	3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します ・肉用牛飼育頭数4千頭を目指します

1　事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	肉用牛繁殖農家	対象者数	200
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	子牛生産における事故は繁殖経営に大きな打撃を与えるため通常、飛騨農業共済事務組合が取り扱う家畜共済に加入するが、共済対象外の事故も発生し大きな打撃になることから、そういった事故に備えるように組合員相互で互助制度を行うための基金を造成するので、その基金造成に対し一部を助成する。		
概要	事業の実施手法(手段)	高山市和牛改良組合が実施する家畜共済対象外の流死産等の事故(早期の流死産等)に対する互助のための基金造成に対して一部助成する。		

2　事業の推移・結果(Do)

成果面

H24の実績	互助事業加入頭数　3,351頭

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
成果指標	肉用牛繁殖雌牛飼育頭数	頭	目標値	3,700	3,800	3,900
			実績値	3,439	3,398	－
	算出根拠等		達成率(%)	93	89	－
活動指標	互助事業加入頭数	頭	目標値	3,410	3,360	3,600
			実績値	3,357	3,351	－
	算出根拠等		達成率(%)	98	100	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出　(千円)		(A)	608	543	900
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)				
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				
	一般財源		608	543	900
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A／B)	3,040	2,813	4,500
	受益者　肉用牛繁殖農家	(B)	200	193	200

3　分析・評価(Check)　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	この事業を行う事は、飛騨牛の生産経営安定のための必要とされている。 流産等の事故は、毎年1～2%程度発生しており、農家の経営に大きな打撃を与えている。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	和牛改良組合が実施する、農業共済事業で補填されない流産等の子牛事故に備えた互助事業の為の基金造成に一部補助する事は妥当である。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	高齢化や病気、けが等時における後継者不足により、繁殖農家戸数が急激に減少する中、繁殖雌牛飼養頭数の減少を低率に食い止めている。(H22→23 戸数▲4.8%、頭数▲2.0%)
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	農家負担50%、高山市補助25%に加え、JAから25%補助をいただいており、十分工夫されている。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	高山市和牛改良組合が実施する、家畜共済で補填されない流死産等の子牛事故に対する互助の為の基金造成に対して一部(1／4)助成し、互助事業を援助する事により、繁殖経営の打撃を和らげるのに効果がある。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		9 ／ 10	→	100点換算	90 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	高齢化や後継者不足で、畜産農家が毎年減少している。
(参考)H24事業評価結果(二次評価)	従来通り継続実施

4　今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	従前どおり継続実施

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	従来通り継続実施				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	(担当課評価に同じ)				

平成25年度事業評価シート(一般予算)

事業名	52250	飛騨食肉センター運営整備事業	担当課	農政部　畜産課	内線
	番枝				2239

予算			総合計画			
会計	1	一般会計	政策	4	「にぎわい」のあるまちをまざして
款	5	農林水産業費	分野	4	畜産業
項	2	畜産業費	基本施策	1	安定した畜産経営を整備する
目	2	畜産振興費	施策	3	畜産関連施設の整備

根拠計画		
実施計画事業		新飛騨食肉センター運営整備事業
市長公約	3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します ・安定した畜産業を実現するため、飛騨牛を代表とする各種畜産物の全国ブランド化や、 アジアを主体とした海外販路の確立を、具体的に進めます。

1　事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	畜産農家(肉用牛・豚・鶏)	対象者数	266
	どういう状態にしたいのか(意図)	畜産の振興及び安全・安心な食肉の安定供給		
概要	事業の実施手法(手段)	・頭部焼却に係る経費の一部助成(BSE対策) ・食肉センター建設に係る地元負担金(債務負担) ・豚と畜ライン停止による近隣と場への輸送費等の助成 ・と畜部門運営経費の一部助成		

2　事業の推移・結果(Do)

成果面

H24の実績	・頭部焼却に係る経費の一部助成(BSE対策) ・食肉センター建設に係る地元負担金(債務負担) ・豚と畜ライン停止による近隣と場への輸送費等の助成 ・と畜部門運営経費の一部助成

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
成果指標	肥育牛	頭	目標値	6,500	6,500	6,500
			実績値	6,218	5,924	－
	算出根拠等		達成率(%)	96	91	－
成果指標	肉豚出荷頭数	頭	目標値			
			実績値	6,669	5,812	－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出 (千円)		(A)	66,531	66,157	68,265
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)				
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				
	一般財源		66,531	66,157	68,265
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A／B)	250,117	261,490	269,822
	受益者　畜産農家	(B)	266	253	253

3　分析・評価(Check)　※平成24年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	BSE対策など、安全安心な農畜産物を市民に供給することに対するニーズはとても高い。 販路拡大に対しても、高レベルの食肉衛生処理が重要である。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	大規模な他の産地と競争していくには、市村の補助が不可欠である。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	食肉センターの健全な運営は、飛騨牛ブランドの確立や畜産振興に欠かせない。 BSE等の被害は確認されていない。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	食肉センターに対し、安定的運営とともに効率化やコスト縮減を求めていく必要がある。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	安全な食肉を提供するため、また販路拡大にあたって、高レベルの食肉衛生対策は有効である。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計			8 ／ 10	→	100点換算	80 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	食肉センターに対し、高レベルの食肉衛生対策を維持していただくとともに運営の効率化やコスト縮減を求めていく必要がある。
(参考)H24事業評価結果(二次評価)	センターの経営改善を促していく必要がある

4　今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	各種助成事業の継続実施 食肉センター運営委員会への出席

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	各種助成事業の継続実施 食肉センター運営委員会への出席				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・センターの経営改善を促していく必要がある。				